

# 令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書【年度末評価】

令和7年3月4日  
札幌市立山の手小学校

## 1 本年度の重点目標

～豊かさを もとめるために～  
しなやかに考える子 しなやかに行動する子

## 2 重点目標の具現化

- ① 【学 ぶ 力】 「自ら学ぶ方法」と「人と学び合う方法」を身に付け、「挑戦する意欲」を育てる。
- ② 【豊かな心】 「自分のよさ」に気付き、周りの人々への「思いやりの心」「感謝の心」を育てる。
- ③ 【健やかな体】 体を動かすことの楽しさを感じ、様々な運動に取り組む子どもを育てる。  
食や命の大切さに気付く子どもを育てる。
- ④ 【信頼される学校の創造】

## 3 自己評価及び自己評価結果に対する学校関係者評価

① 【学ぶ力】 「自ら学ぶ方法」と「人と学び合う方法」を身に付け、「挑戦する意欲」を育てる。				
評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善の方法	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校は、子どもたちが「自ら学ぶ方法」や「人と学び合う方法」を身に付けられるようにしている。	A	「課題探究的な学習」を取り入れた授業づくりを行っていく。子どもの自ら発信していく力を伸ばしていく。現地学習やゲストティーチャーなど「本物の経験」を大切にしていく。	A	A
学校は、子どもたちの学習ルールや学習習慣が定着するように務めている。	A	全校共通の学習ルール(筆箱の中身、話の聞き方「聴く」)の掲示を継続する。校内の「G-up 掲示板」と「さっぼろっ子『学び』のススメ」の周知で学校と家庭とで学びを支えていく。	A	A
学校は、一人一台端末を学習で活用し、個別最適な学びや協働的な学びを行っている。	A	学びの質を高めるための、より効果的な活用方を工夫する。(課題探究的な学習や自治的な活動の中で必要感のある活用を。)	A	A
学校は、専科指導や学年専科を推進し、指導体制を充実させている。	A	外国語、書写、音楽、社会の専科指導を行うことで学びの質を高め、職員間の児童理解にも繋がっている。来年度も指導の充実と共に学年専科など内容を工夫していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・探求的な学習について、図書館がお手伝いできる事を、開放図書館でも考えていきたいと思えます。</li> <li>・専科指導がどのように浸透しているのか(貴校だけでなく)興味深いです。副担任制—なかなか実現されませんが—のよさにもつながるのかと考えています。</li> </ul>		
② 【豊かな心】 「自分のよさ」に気付き、周りの人々への「思いやりの心」「感謝の心」を育てる。				
評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善の方法	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校は、道徳科や特別活動を通して「命を大切にする」取組を行っている。	A	道徳や特別活動のほかにも、自治的な活動の場を増やし、児童の自己肯定感や自己有用感を高める取組を積極的に行う。全校で「命を大切にする」取組を行っていく。保護者と連携しながら子どもが自尊感情をもてるような関りを大切にしていく。	A	A

学校は、いじめ防止基本方針に基づいた未然防止と早期発見、適切な初期対応に努めている。	A	学校が組織でいじめ防止等の取組を行い、情報を共有して未然防止・早期発見・対処に努めていく。家庭や地域との連携や専門家を有効に活用しながら対応していく。	A	A
学校は、子どもが周りの人々への思いやりや感謝の心を育む取組を行っている。	A	全校で「3つのあ(あいさつ、あんぜん、ありがとう)」の取組を継続し、感謝の気持ちや他者を思いやる心を育てていく。児童会活動を活用し、より子どもたちの主体的な取組としていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「出張読み聞かせ」では、毎回子どもたちの礼儀正しさに感心しています。(お礼の言葉、敷物をたたんでくれるなど)</li> <li>・とにかく比べられることに晒されることが減るとよいし、保護者も比べ(すぎ)ないことが浸透するとよい。</li> </ul>			

③ 【健やかな体】体を動かすことの楽しさを感じ、様々な運動に取り組む子ども。食や命の大切さに気付く子どもを育てる。

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善の方法	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校は、体育科学習の充実と日常的に体を使うことのできる場を充実させている。	B	来年度も、グラウンドが使用できず、活動制限があるが、「仲間・時間・空間(三間)」の創出やカリキュラムの再構成を行うなど、運動機会の充実を図っていく。端末の活用も充実させていく。	A	A
学校は、食に関する指導や性に関する指導を行い、命や体を大切に子どもを育てている。	A	養護教諭、栄養教諭と連携しながら、健康教育をより充実させていく。外部講師の活用など、家庭や地域とも連携できる取組を工夫していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラウンド使用ができず、運動面での取組を図っていることが、学習発表会でのリズム、器械体操、その他の様子から見て取れました。また、新校舎となり、伸び伸びと活動されている様子もうかがえます。</li> <li>・絵本で食育、よいかもしれない(札幌在住絵本作家 かとうまふみ氏)</li> </ul>			

④ 【信頼される学校の創造】

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善の方法	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校は、札幌や山の手の特色や人とのつながりを活用した教育を行っている。	A	各学年とも、地域を教材化したり、保護者や地域の人々とのつながりを活用したりしながら学習を進めることができた。これまでの取組を基に総合学習を見直したり、学校と地域の連携を見直したりしていく。	A	A
学校は、教育活動や子どもの様子をホームページ、参観懇談等で分かりやすく伝えている。	B	ホームページを見てくださっている方に、山の手の教育活動や子どもの様子について、より分かりやすく、タイムリーな情報を提供できるように今後も継続していく。担任と保護者、また保護者同士が繋がる懇談の場を工夫していく。	A	A
学校は、子ども一人一人の教育的ニーズに応じた指導内容を工夫し、安心できる学校づくりに努めている。	A	子どもの状態や教育的ニーズに応じた学びの場を工夫してきた。来年度も、校内学びの支援委員会の充実に努め、その子のニーズに応じた指導内容を工夫していく。子どもの声をしっかりと「聴く」ことを大切にする。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務や用務の職員の方も、子どもたちに対応されていて、全職員で子どもたちと向き合っていると感じ頼もしく思いました。</li> <li>・今年は具体的に校外でどう活動しているのかが分かりにくかったです。もちろん、無理に開示しなくてもよいですが。</li> <li>・20年前、子どもたちの成長を見守る活動に地域や保護者を巻き込んでいった山の手の小学校。その姿勢が、今も変わらないことに感動しています。素晴らしい先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。</li> </ul>			